

健全で豊かな森林づくりプロジェクト 自己評価シート (5年間の総括)

プラン名	可茂南部100年の森づくりプロジェクト (都市近郊林業)	作成日	25年 4月 30日
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 単独 <input type="checkbox"/> JV	所属	可茂森林組合
		記入者	河方 智之

(プロジェクト提案時に目標に掲げた内容等を簡潔に記載してください。)

① 森林所有者が一人ではできない継続的な森林管理を、森林組合が一元管理する体制の構築
 森林地理情報システムを活用し森林施業の原点である境界管理を行う。この情報を基に施業地の集約化を効率的に実施し、零細所有ながらも団地的なまとまりで管理するシステムを構築する。

② 森林所有者に収益の還元ができる森林づくり
 人工林の多くは、間伐の遅れ等適切な森林整備が行われておらず、現段階では安定的な林業経営を行うには極めて厳しい状況にあるが、木材生産による収入が得られる森林にならなければ、将来にわたり適正に管理できなくなる。よって、素材生産の低コスト化を図るための作業道等の基盤整備や林業機械による作業システムの構築、今後の成長量に期待できる施業方法を確立する。

事業期間 平成 20 年度 ~ 平成 24 年度 (5 年間)

	成果指標	単位	事業計画 (5年間の総計)		事業実績 (5年間の総計)	
			計画	実績	実績	実績
①	施業集約化	ha	282.9		515.0	
②	植栽	ha	0.0		0.0	
③	下刈・除伐	ha	9.0		0.0	
④	切捨間伐	ha	55.5		56.0	
⑤	利用間伐	ha	165.1		165.0	
⑥	主伐	ha	0.0		0.0	
⑦	作業道開設 (延長) w= 3.0 / 3.6 m	m	10,700	14,300	14,448	14,052
⑧	作業道開設 (開設コスト) w= 3.0 / 3.6 m	円/m	1,100	7,000	808	3,287
⑨	木材生産量 (モデル団地内)	m ³	5,246		5,247	
⑩	木材生産量 (モデル団地外)	m ³	7,254		5,127	
⑪	木材生産性 (選木・伐倒・土土場への集材まで)	m ³ /人日	3.7		2.1	
⑫	木材生産コスト (算出工程は、同上)	円/m ³	9,384		12,386	
⑬	高性能林業機械	台数	1台 → 3台		1台 → 3台	
⑭	林産技術者数	人数	3人 → 3人		3人 → 5人	
⑮	林産班のチーム数	チーム数	1チーム → 2チーム		1チーム → 2チーム	
⑯	森林施業プランの実施	有・無	有		無	
⑰	森林施業プランナーの養成	人数	1人 → 1人		1人 → 1人	
⑱	森林所有者への平均利益還元額 (補助金含む)	円/m ³	0		124	
⑲	各種研修会等の開催	回数	-		2	
⑳	研修・視察等の受け入れ	回数	-		2	
(21)	地域への周知 (森プロのPR等)	回数	-		10	
(22)	100年の森づくり施業指針に基づく木材生産林への転換	調査	-		継続中	
(23)	森林管理システムの構築	ha	-		221	
(24)	地域内の産直住宅関連業者への供給	m ³	-		実績なし	
(25)						
(26)						
(27)						
(28)						
(29)						
(30)						
(31)						
(32)						
事業実績	補足説明					

【フォローアップ委員会時点の自己評価】				
配点	3点	2点	1点	
プロジェクトは当初計画どおり実施されているか	<input type="checkbox"/> 実施されている	<input checked="" type="checkbox"/> 一部未実施	<input type="checkbox"/> 実施されなかった	
当初設定した目標（生産コスト等）は達成したか	<input type="checkbox"/> 達成した	<input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した	<input type="checkbox"/> 達成しなかった	
進捗管理（定点観測等）は実施されているか	<input type="checkbox"/> 実施されている	<input checked="" type="checkbox"/> 一部未実施	<input type="checkbox"/> 実施されなかった	
1 達成度				
【プロジェクトの総括自己評価】				
配点	3点	2点	1点	
プロジェクトは当初計画どおり実施されているか	<input checked="" type="checkbox"/> 実施されている	<input type="checkbox"/> 一部未実施	<input type="checkbox"/> 実施されなかった	
当初設定した目標（生産コスト等）は達成したか	<input type="checkbox"/> 達成した	<input checked="" type="checkbox"/> 一部達成した	<input type="checkbox"/> 達成しなかった	
進捗管理（定点観測等）は実施されているか	<input type="checkbox"/> 実施されている	<input checked="" type="checkbox"/> 一部未実施	<input type="checkbox"/> 実施されなかった	
補足説明	モデル団地内において当初計画のとおりプロジェクトを進める事が出来た。路網の開設については、尾根部分を中心にすることで扱う土量が少ないことや構造物の使用を極力避けたことが達成できた要因だと考える。ただし生産コストは、未間伐ということで小径木で伐採、造材本数が多いためコスト高となり見込みが甘かった。			
2 成果				
【フォローアップ委員会時点の自己評価】				
配点	3点	2点	1点	
木材生産の拡大が図られているか	<input type="checkbox"/> 図られている	<input checked="" type="checkbox"/> 一部図られている	<input type="checkbox"/> 図られていない	
森林環境（動植物等）の改善を確認できるか	<input type="checkbox"/> 大いに確認できる	<input checked="" type="checkbox"/> 一部確認できる	<input type="checkbox"/> 確認できない	
山地災害発生を抑制する工夫ができたか	<input type="checkbox"/> 工夫できた	<input checked="" type="checkbox"/> 一部工夫できた	<input type="checkbox"/> 工夫できなかった	
【プロジェクトの総括自己評価】				
配点	3点	2点	1点	
木材生産の拡大が図られているか	<input checked="" type="checkbox"/> 図られている	<input type="checkbox"/> 一部図られている	<input type="checkbox"/> 図られていない	
森林環境（動植物等）の改善を確認できるか	<input checked="" type="checkbox"/> 大いに確認できる	<input type="checkbox"/> 一部確認できる	<input type="checkbox"/> 確認できない	
山地災害発生を抑制する工夫ができたか	<input checked="" type="checkbox"/> 工夫できた	<input type="checkbox"/> 一部工夫できた	<input type="checkbox"/> 工夫できなかった	
補足説明	専属の林産班と作業道オペレーターを養成でき木材生産が増大した。作業道は水が集まる谷を避け尾根部分を主体としたことで、災害の起因とならない壊れにくい作業道の開設が出来た。また、作業道開設後と間伐後は林内が明るくなり今後、下層植生が増えてくることが期待できる。			
3 効率性				
【フォローアップ委員会時点の自己評価】				
配点	3点	2点	1点	
コストや業務量に見合った成果が得られたか	<input type="checkbox"/> 得られた	<input checked="" type="checkbox"/> 一部得られた	<input type="checkbox"/> 得られていない	
効率的な実施体制で推進されているか	<input type="checkbox"/> 推進された	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね推進できた	<input type="checkbox"/> 推進できていない	
積極的に民間活力を活用しているか	<input type="checkbox"/> 活用できた	<input checked="" type="checkbox"/> 一部活用できた	<input type="checkbox"/> 活用できなかった	
【プロジェクトの総括自己評価】				
配点	3点	2点	1点	
コストや業務量に見合った成果が得られたか	<input type="checkbox"/> 得られた	<input checked="" type="checkbox"/> 一部得られた	<input type="checkbox"/> 得られていない	
効率的な実施体制で推進されているか	<input type="checkbox"/> 推進された	<input checked="" type="checkbox"/> 概ね推進できた	<input type="checkbox"/> 推進できていない	
積極的に民間活力を活用しているか	<input type="checkbox"/> 活用できた	<input checked="" type="checkbox"/> 一部活用できた	<input type="checkbox"/> 活用できなかった	
補足説明	プロセッサやフォワーダのリースが作業工程のタイミングが合わず、小径木が手造材になることあり、手間がかかったことが生産性の目標達成に至らなかった原因だと考える。 (平成25年2月にプロセッサを導入) パルプについては地元のパルプ会社（可児市）に運送した。			
4 妥当性				
【フォローアップ委員会時点の自己評価】				
配点	3点	2点	1点	
地域住民（森林所有者）のニーズを反映しているか	<input type="checkbox"/> 反映している	<input checked="" type="checkbox"/> 一部反映している	<input type="checkbox"/> 反映していない	
プロジェクトの計画内容(箇所・時期等)は適当であったか	<input type="checkbox"/> 適当であった	<input checked="" type="checkbox"/> 一部適当でなかった	<input type="checkbox"/> 適当でなかった	
期待する人材は養成されたか（伐採専門チーム等）	<input type="checkbox"/> 養成された	<input checked="" type="checkbox"/> 一部養成された	<input type="checkbox"/> 養成されていない	
【プロジェクトの総括自己評価】				
配点	3点	2点	1点	
地域住民（森林所有者）のニーズを反映しているか	<input checked="" type="checkbox"/> 反映している	<input type="checkbox"/> 一部反映している	<input type="checkbox"/> 反映していない	
プロジェクトの計画内容(箇所・時期等)は適当であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適当であった	<input type="checkbox"/> 一部適当でなかった	<input type="checkbox"/> 適当でなかった	
期待する人材は養成されたか（伐採専門チーム等）	<input checked="" type="checkbox"/> 養成された	<input type="checkbox"/> 一部養成された	<input type="checkbox"/> 養成されていない	
補足説明	計画内容や時期を含め、今後の事業展開を考えると森林組合組織としてこのプロジェクトに取り組んだことは大きい。モデル団地に隣接する地区からの要望もあり、今後も継続して事業を継続していく。			

【フォローアップ委員会時点の自己評価】			
配点	3点	2点	1点
関係者(住民・所有者・従事者)の満足度は向上したか	<input type="checkbox"/> 向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 一部向上した	<input type="checkbox"/> 向上しなかった
選定委員会、研修等における指摘事項は十分対応できたか	<input type="checkbox"/> 対応できた	<input checked="" type="checkbox"/> 一部対応できた	<input type="checkbox"/> 対応できなかった
上記以外にも成果向上のための改善余地はあるか	<input type="checkbox"/> 余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 一部余地がある	<input type="checkbox"/> 余地がない

【プロジェクトの総括自己評価】			
配点	3点	2点	1点
関係者(住民・所有者・従事者)の満足度は向上したか	<input checked="" type="checkbox"/> 向上した	<input type="checkbox"/> 一部向上した	<input type="checkbox"/> 向上しなかった
選定委員会、研修等における指摘事項は十分対応できたか	<input checked="" type="checkbox"/> 対応できた	<input type="checkbox"/> 一部対応できる	<input type="checkbox"/> 対応できなかった
上記以外にも成果向上のための改善余地はあるか	<input checked="" type="checkbox"/> 余地がある	<input type="checkbox"/> 一部余地がある	<input type="checkbox"/> 余地がない

補足説明	作業道の開設が森林所有者自ら山へ行くきっかけとなった。大半が未間伐林の初回間伐であったため、利益還元は期間中は出来なかったが、今後の2回目以降の利用間伐は、このプロジェクトを通して学んだことを活用し利益還元が出来るよう努力する。
------	--

自己評価結果(集計)

評価集計	1 達成度	2 成果	3 効率性		
	6	7	6		6
	4 妥当性	5 発展性	合計点		
	6	9	30		40
	総合評価		フォローアップ時		5年目総括時
		B	A		

総合評価：A=現状維持すべき B=充実・拡大すべき C=要改善すべき
 (配点区分：A=45~36点 B=35~26点 C=25~15点)

農林事務所 コメント	<ul style="list-style-type: none"> このプロジェクトを契機として取り組んだ集約化の取り組みにおいては、大規模森林所有者が不在の地区における集約化であり、他の地域にない積極的な挑戦であったと高く評価したい。 プロジェクト事業開始とともに直営の林産班を設置したため、低コスト作業システムの導入には苦勞を伴ったと考えられる。作業システムの現地適応においては、施業プランナーとの連携強化により木材生産性向上の余地があると思われるので、今後の技術向上に期待したい。 この経験を基に、可茂南部の各市町においても取り組みを広げているところであり、今後も地域の森林管理の担い手として信頼を獲得し、益々活躍していただきたい。
---------------	---

プロジェクト実施者による自己総評

プロジェクト 構成員による 個別コメント	<p>林産事業の経験が無く手探りに近い状態で開始し、当初は計画に対して思うような進捗状況ではなかったが、事業量に関しては計画数字を達成することが出来た。年度ごとに人の配置や担当の設置を流動的にし、事業の流れが改善されていったことがあげられる。ただし、素材生産コストに関しては、適期に機械リースができなかったことや用材やパルプの需要変動により山土場から動かせない状況が発生し、林産班の作業工程が崩れ人区の増大につながってしまった。この問題に対して、造材と小運搬をどう効率よく実施するかが今後の第1の課題だと考える。</p>